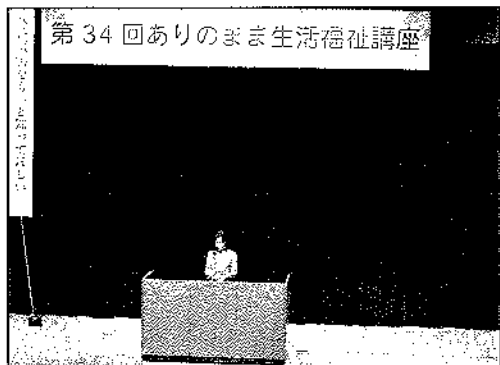




2023年7月発行  
 社会福祉法人ありのまま舎  
 (障害者自立企画)  
 発行・編集責任者 白江 浩  
 編 集 佐藤 環  
 〒982-8544  
 仙台市太白区西多賀4丁目19-1  
 TEL022(243)1300  
<http://www.arinomama.or.jp>  
 E-mail houjin-arinomama@globe.ocn.ne.jp

1976年2月25日 第3種郵便物認可(毎週4回月・火・木・金曜日発行)  
 2023年7月14日発行 SSKO通巻11408号

## 第34回ありのまま生活福祉講座 ～対面での講座を再開～



第34回ありのまま生活福祉講座

6月10日(土)、仙台市福祉プラザふれあいホールにて「第34回ありのまま生活福祉講座」が開催されました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年はオンラインを用いて行いましたが、今年はコロナ前の形に戻し、対面での講座となり約70名の方々が足を運んで下さいました。

座長の杉子女王殿下には毎年ご臨席を賜り、今回もご来仙いただきお言葉を賜りました。講師として、座長から御推薦をいただいた歌人の永田和宏様は、「言葉のちから」と題し、三十一文字(みそひともし)に思いを込める短歌の面白さをお話いただきました。

昨年のありのまま自立大賞受賞者で長崎みなとメディアカールセンターの耳鼻咽喉科医師である、吉田翔様は、「聴覚障害をもっと知って欲しい」と題し、3歳の時に先天性両耳性

難聴と診断を受けてから目標であった医師になるまでのご経験や、医師として聴覚に障害のある方へのアドヴァイスを分かりやすくお話いただきました。

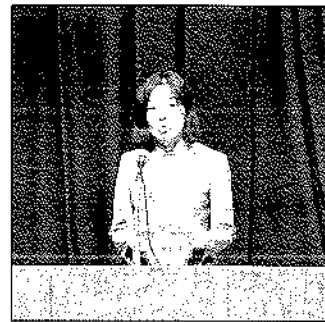
東京や神奈川の遠方からご参加くださった方もおられ、コロナ禍を乗り越え活動を再開することができたことを大変嬉しく思います。

## 薫る風

ありのまま舎を創設した三兄弟の次男山田秀人が亡くなって六月二十三日でまる丸四十年が過ぎた。三兄弟で唯一最後まで病院で暮らし、独身だったが、最も人との関係を大切に、女性ファンが多かった。詩人として最後まで、その情感を伝え続けていたが、その活動を支えるには、病院よりも身近で常に誰かがいる環境の方が良いと思っていた。七ヶ浜の実家に外泊したり、どこかに出かける時に、一緒に過ごしたが、そういう話をしても、最後はなんとなくはぐらかされた。その理由をずっと考えてきたが、彼自身何度か恋をし、共に活動した人々との別れを恐れたのではないかと思うようになった。言い換えれば、最後に誰もいなくなることを恐れたように思う。私自身、一度は仙台を離れてしまった経験があり、離れる間にふたりで話した時に、はつきり言わなかったが寂しさや口惜しさが伝わってきた。その時は気付かなかったが、四十年経過してそう思えるようになった。先日月刊福祉という福祉の専門誌のインタビューを受ける機会があり、当時のことを話す中で改めて強く感じた。そしていつも残される身で、待つ身であることを詩に綴っていたことを思い出した。あれから四十年の間に、「障碍」や「難病」の人々のおかれた環境は大きく変わった。制度上も国民の意識も変わり、あの時とは違う選択肢が増えた。当時同じ選択肢があれば、彼の人生も私の人生もきっと大きく変わっていただろう。それでも「社会の障碍(障壁)」を感じながら今も多くの人が生きている。差別や虐待、偏見や人権侵害にさらされる人々が大量にいる。私たちは幸せを求めているのに、なぜか遠ざかっているようにさえ思える。秀人の感性が、この四十年の変化、今の時代をどのように表現するのか、ぜひ聞きたい。

(白江浩)

### 彬子女王殿下おことば



本日ここに、第34回ありのまま生活福祉講座が開催され、皆様にお目にかかれまことを大変うれしく思います。

ありのまま生活福祉講座の座長をお引き受けして、6回目の講座となりました。父はよく、「皇族と言うのは、国民の中に自ら入っていったら、国民の求めることをするのが仕事だ」とよく言っておられました。それが父にとつて、社会福祉、青少年育成、スポーツ振興、国際交流であったと思います。私はその父の教えを、「子どもたちに日本文化を伝える」という仕事で果たしているつもりです。

父の御晩年、「俺が死んだら、俺の仕事をお前はどっしりしていこうつもりだ？」と聞かれたことがあります。国際交流やスポーツ関係の行事は、以前から度々に行き、様子を見てきていま

したし、私にも関わりのあることばかりでしたので、私に引き継がせるおつもりなのだろうと自然と思っていました。ただ、社会福祉に関しては、私は完全なる素人です。子どもの頃から父のご活動を見てきましたので、一般の方より理解がある方だとは思っていますが、公務として引き継ぐとなると話は別です。父が生涯の情熱を傾けられたように、同じ熱量で取り組めるほど私に知識はないし、自信がないと言ったことを正直に申し上げました。すると父は、「それは当然だよな。俺が死んだら柏朋会は解散させるし、他の福祉団体についても、俺がいなくても機能するようにしておくよ」と言われたのです。

その後、恐らくは父がしっかりと差配することがおできにならないまま、御隠れになられたと思います。父の薨去後、ありのまま舎から総裁就任のお話を頂戴しましたが、父にお話しように、自信がないとお断りを致しました。ただ、父が長年力を尽くされてきた団体です。私が専門とする事で何かお力添えができるのであればと、生活福祉講座の座長をお引き受けいたしました。講師の先生のお話を皆さんが熱心に聞いてくださり、領い

たり、笑いが起こったりするのを見ると、来て頂いてよかったととてもうれしい気持ちになります。

今日お話しくださる永田和宏先生は、私の歌の先生であり、私が勤めております京都産業大学の元同僚というのをおこがましいのですが、大先輩でいらつしやいます。先生は、やわらかい語り口ではありつつも、ダメなものダメとはつきり言ってくださいます。そしてよい歌ができるときは、本当に手放しで褒めてくださいます。和歌・短歌と言うものはどのように詠むべきなのか、何も教わらない、知らないまま、やむにやまれぬ事情で歌を詠まなければならなくなった私にとつて、三十一文字(みそひともじ)に思いを込める面白さを教えてくださったのは永田先生でした。先生の歌を読んで涙がこぼれていた自分に驚き、たった三十一文字で人の感情を揺さぶることのできる先生の歌に心から感動したのです。今日は三十一文字以上の言葉でお話下さる先生の講演を伺うのを、皆様と共に楽しみにしております。

皆様に取って、本講座が、文化や福祉の世界に一步近づく機会になることを祈りつつ、私よりのご挨拶といたします。

### 永田和宏氏 「言葉のちから」



【プロフィール】  
歌人、J-T生命誌研究館館長、京都大学名誉教授、京都産業大学名誉教授。

1947年滋賀県生まれ。京都大学理学部物理学科卒業の後、アメリカNIH(国立がん研究所)客員准教授を経て、京都大学胸部疾患研究所教授、同再生医科学研究所教授、京都産業大学総合生命学部学部長、同タンパク質動態研究所所長などを歴任。2020年4月から現職。朝日歌壇、宮中歌会始詠進歌選者なども歴任。



歌人でもあり、サイエンティストでもある永田様。「私はサイエンスの他に短歌という詩形で表現しております。短歌っていうのは本当に短い詩形ですが、これがどういう力を持つつかというようなことを、一つは社会的ないろんな事象をどんな風に短歌で詠み、一つは個人的な思いをどのように短歌で伝えることができるかというこの二点を中心にお話をさせていただきます。」と冒頭にお話を頂きました。

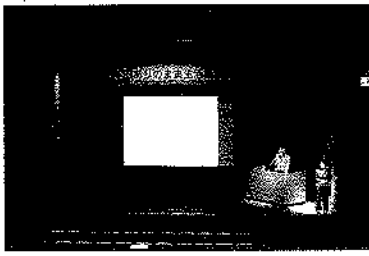
100年前に大流行したスペイン風邪。日本でも大流行し、女学生がマスクをしている写真の紹介がありました。そして現在、新型コロナウイルスが大流行し、マスクが不足したり、マスクの効果に疑問を持ったり、有名人がコロナで亡くなったことと今まで自分には関係ないと思っていた意識が大きく変化したことを詠んだ歌が紹介されました。

また、コロナによる外出自粛、テレワークなどを詠んだ歌も紹介されました。家族内の距離感、テレワークが推奨され、テレワークしなないと時代遅れみのような風潮の中で、社会を支えているのはバスや電車の運転手、スーパーの販売員、医師など、テレワークできない人々たちであることを詠んだ歌など、社会の事象

を取り入れた歌がどんな解釈ができるか丁寧に感動的なお話をいただきました。

「歌ってというのは花鳥風月を詠むと見られがちですが、実は現代の社会に暮らしていて、その目に直面しているいろんな現実あるいは矛盾そういうものを一文字という非常に短い言葉ですけど、その言葉の中の的確にえぐりだすことができるそういう力を持っている、そういう詩形だということを知っていただきたいと思っております。

一方で、言葉というのは難しくって皆さん英語だったら自分の思いを伝えるのは難しいけど、日本語だったら自分の思いは何でも伝えられると思われているかもしれない。実は言葉と言葉の間には非常に大きな隙間があると私は思っています。デジタルというのは(デジタル)、1、2、3と数えられるもの。その対極にある言葉はアナログだと



印象に残る沢山の短歌をご紹介いただきました。

思うけども、言葉っていうのは最大のデジタルなんです。言葉の一つ発するとそれに含む言葉と言葉の間には非常に色んな思いがあって、それが全部消えてしまう。つまり言葉の一つ発することはその言葉の意味する以外のものを全部捨象してしまう。捨ててしまうことに等しい言葉で思いを伝えると非常に難しいと思っております。特に深い思いである程、それを相手に伝えるのは難しいと思えます。」とお話をいただきました。

後半は奥様で歌人であった河野裕子さんのお話を頂き、闘病の末、お亡くなりになりましたが、お互いに歌を詠み、思いを伝えあつた時のことを紹介下さいました。歌を詠み返し、また別な方が詠むことで別の解釈が生まれます。

「歌にはね正解っていうのはないんですよ。歌の正解っていうのはこの歌はこういう風に解釈したら、こんな風にとつたら、この歌が自分にとつては一番よく見えてくる。それがその人にとつての歌の正解だと思っております。」という言葉が印象的でした。



### 吉田翔氏 「聴覚障害をもつと知ってほしい」



#### プロフィール

長崎みなとメデイカルセンター 耳鼻咽喉科医師・日本耳鼻咽喉科頭頸部外科専門医・元デフレピックバレーボール日本代表

1984年佐賀県生まれ。先天性両耳性難聴。佐賀県ろう学校幼稚部一年間通級し、普通幼稚園に入園。普通小中学校で学び、公立佐賀西高校進学。大学受験を二浪し、九州大学医学部保健学科検査技術学専攻入学。卒業後二浪して、佐賀大学医学部医学科入学。2017年トルコサムスンで開催されたデフレピックのバレーボール日本代表として出場。2022年にありのまま自立大賞受賞。

出生当時、新生児スクリーニングがまだ普及しておらず、ご両親が発語が遅れていることを病院に相談したところ、3歳で先天性難聴と診断を受けました。ご両親は言語聴覚士の指導の下、独自の指導方法で指導を続けられました。22歳の時、ある講演に招かれお話をした時に、自分のように困っている人たちの力になりたいと思い、経験だけではなく、医学的な知識もふまえた支援を行うために医師を目指し、2年の道のりを経て医師免許を取得されました。

「僕は先天性難聴なので、これまで困ったことを書いてみました。多人数での会話を溶け込めないことで人の話を聞いてないノリが悪いと勘違いされやすいです。僕に向かって話してくれるのは聞きやすいですが、AさんとBさんが会話している時、グループディスカッションの時に誰かが話していることを聞くのはとても疲れます。疲れるともういいかなって思ってしまうんです。受験時の英語のリスニング試験は難しい。マイクでの話は反響して聞こえにくいので、電車に乗った時のアナウンスは分らないということ。また風呂場や海、プールで補聴器を外さないといけないので、会話ができなくなります。

僕が耳鼻科医になった時、医

療の世界に入って、初めて新しい言語を獲得していく難しさはありました。同期や後輩は普通に聞こえているので、いろいろな先生方の会話を聞いて伸びしろが早いですよ。あとは会議の内容を全部理解することは難しいです。」と医師になられるまでのご苦労や努力をお話いただきました。

また難聴があると他の人とのコミュニケーションが低下し、部屋に引きこもり社会的孤立状態になりやすい、認知症と勘違いされやすいなどが分かっています。そのため補聴器を検討される場合は補聴器専門店や病院の補聴器外来を受診することなどアドヴァイス頂きました。最後にデフレピック(4年に一度行われる聴覚障害者のための総合スポーツ大会)に出場した時のお話があり、次回2025年に東京で開催されます。より多くの皆様に知っていただけることを願っておられました。全日本ろうあ連盟や日本デフレピック協会へのご寄付のお願いも呼びかけられました。



ご出身の佐賀県や長崎県のご紹介もお話頂きました。

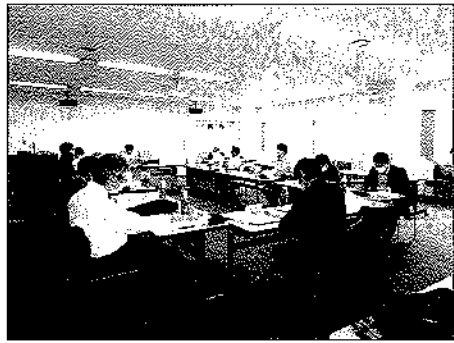
仙台エリア  
【法人本部】

第1回理事会・定時評議員会  
第2回理事会

令和5年6月6日(火)に仙台市中小企業活性化センターにおいて「第1回理事会」を、6月21日(水)にはエル・ソール仙台において「定時評議員会」を開催し、同日に「第2回理事会」を開催いたしました。

この時期の理事会・定時評議員会では社会福祉法人の昨年度(2022年度)の事業報告と決算に関する議案が主になりましたが、理事と監事の任期満了に伴う改選期とも重なる社会福祉法人も多かったと思います。

ありのまま舎においても理事と監事の任期が定時評議員会の終結をもって満了となり、新理事・監事の選任に関する議案を審議いたしました。その中で長く理事・評議員をお勤めいただいた鶴間順子理事が年齢や体調面の事もあり任期一杯で退任されることになりました。第1回理事会の場においてご挨拶を頂戴致しました。初代理事長の齊藤久吉様の中からコンサートなど様々な活動でお支えいただきましたが、当時の懐かしむお話なども頂き、最後に励ましのお言葉も頂戴しました。本当に長



(嶺岸智)

い間ありがとうございました。定時評議員会の場においては鶴間順子理事の後任にあたる方として宮城県患者・家族団体連絡協議会の副理事長の菅原富士子様の承認とそれ以外の9名の理事と2名の監事について再任のご承認をいただきました。

また併せて第1回理事会及び定時評議員会の場で昨年度の事業報告と決算に関するご審議頂き無事にご承認を賜りました。定時評議員会と同日に開催した第2回理事会の場において、新しく菅原富士子理事をお迎えし、新理事長の選任について全会一致で白江浩理事長が再任となり、新たな体制でスタートすることとなりました。

【ホームケア仙台ありのまま舎  
リビングセンター】

5月から65歳以上の方、基礎疾患のある方のコロナワクチン接種が始まりました。入居者の方は早い方で6回目の接種です。自立ホーム入居者の方はかかりつけの病院で接種する方が多く、接種券が届いた後に主治医に相談して進めています。接種するかどうかはご本人の判断になりおひとりおひとり検討いただいています。

ある方は毎回発熱の副反応が出るため、ワクチン接種をどうするか悩まれていました。ご家族とも相談しワクチンを接種することにになりました。「本当は熱が出るのは嫌ですが、コロナになって他の入居者の方に移すと迷惑をかけるので受けようと思います。」とお話がありました。

ワクチン接種後の副反応を不安に思い、また熱が出ることで体調的に辛いと思う入居者の方も多くおられ、その中で周りの方々のことを含め、ワクチンを受ける判断をしてくださっていることを思います。入居者やそのご家族の協力をいただきながら自立ホームの感染症対策が保たれていることに感謝しなければと思います。

(佐藤環)

【サポートケア仙台ありのまま舎  
(難病・障害者相談支援センター)】

サポートケア仙台ありのまま舎は、障害福祉サービスを利用する為の支援をすることが主な業務となっております。具体的には障害や難病をお持ちの方(成人の方もお子様もです)が福祉サービスを利用したい時に、ご希望をお聞きすることや、現在の生活の状況等を把握します。その上で皆様が日々の生活や日中活動・就労等のお手伝いをさせて頂いています。

「こんなサービスを利用したい」「こんな生活ができたら良いな」というお話を頂ける方もいらっしゃいますが、「どうせ無理だろう...」「大丈夫だよ...。」と半ば諦めてしまっている方もいらっしゃいます。その思いを受け止めつつも、前向きに自分らしく充実した毎日を過ごせるように、お気持ちに寄り添うことで、気軽に相談頂ける存在になりたいと思っています。しかし、皆様の意向や思いを引き出すことや、実現できるような知識や経験が足りなく、反省することも多いです。未熟な相談員ですが、携わっている方が少しでも毎日を楽しく笑顔で過ごせるような存在になれるように努めていきたいと思っています。

(相澤誠一)

在宅介護を応援します!!



〒982-0031 仙台市太白区泉崎1丁目34-16  
Tel・Fax 022-743-3161

茂庭台エリア

【難病ホスピスケア太自ありのまま舎】  
【ケア】

梅雨に入り蒸し暑い日が続いており、梅雨明けが待ち遠しい所ですが、A、Bブロックではコロナ過で行事等が中止になり季節感を感じる機会が少なくなっていることから、施設内で季節感を感じられる様に、スタッフルーム前や各居室等に飾り付けを行っています。昨年は、藤の花、紅葉、クリスマス、七福神等を飾り付けました。今年の6月は、アジサイやアサガオ、カエル等を折り紙で作製し飾り付けをしました。車椅子に移乗した入居者と写真を撮り思い出作りをしたり、天気の良い日には、中庭の花々を見ながら散歩をしています。

また、入居者やご家族にとつて一番大事な日であるお誕生日を大事にしようという事で、居室前にお誕生日の飾り付けをして、メッセージカード等を作製し、お誕生日当日にスタッフでお祝いをしております。入居者やご家族に喜ばれているので、継続していきたいと思えます。

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、2023年5月8日(月)に「5類」に移行し緩和や解除の流れもあります。入居者の感染リスクに変わ



アジサイやアサガオを飾り付け季節を感じています。

りはありません。法人の感染対策と入居者の方の安全・安心を守りながら楽しみを増やしていければと思います。

(及川勝也)

【チャイルドケア

仙台ありのまま舎保育園】

七夕や夏祭り、海開きと夏らしいイベントが目白押し季節となりました。子どもたちは変わりなく元気に過ごしています。晴れている日は暑く、水遊びを気持ち良く楽しめるようになりましたね。先日、泡や色水等はなく、水を汲んだり、魚釣りなどの玩具のみ用意しました。

少したつたら「泡がいい」と飽きるかなと思いつつも、あるもので水を流してみたり、汲んでみたりと、遊びのヒントを少しずつ出しながら遊びました。

子どもたちは、ただただ水を汲んで流すを繰り返したり、魚の玩具を集めたり、シャワーの

水に向かって行き、じつとしていたり。水の汲み方もじょうろに汲んで、それを小さな深皿に移してと、二度手間だなと思うことを真剣な表情で繰り返して夢中になっているのです。かわいらしく興味深い姿でした。

大人から見たら、それは楽しいのかなと思うようなことに子どもたちは夢中になることもあります。その様子を見つけた時は、興味や探求心を育むチャンス。十分に楽しめるように環境を整えてあげたいですね。

(春日麻里)



七夕メニューの給食!



【サポートケア名取ありのまま舎

【難病・障害者相談支援センター】

今年度第3回目のインタビュ

ーは、Rさんに伺いました。

Rさんは、手工芸の活動を行っている就労継続支援B型に通所されていて、モザイクガラス製品の作製に取り組まれています。麻痺があるため車椅子生活による不便も多いようですが、仕事にもプライベートにも全力で取り組んでいる姿が印象的な方です。

①頑張っていること

「ガラス細工です。細かい作業で慎重に丁寧に行う必要がありますのでとても難しいです。でも、それにすっかりハマっちゃってます。」

②楽しみにしていること

「KAT-TUNの大ファンで宮城セキスイハイムスーパーアリーナでのコンサートに行ってきた。すごく近くで見ることが出来て、手を振ったら振り返ってくれて大興奮でした。もう1回、行きたいので、次に行けるのを楽しみにしています。」

③今後の目標について

「足を治したいです。そのためにまずは1本杖で歩けるようにリハビリを頑張りたいです。」

(熊谷経子)

巨理エリア

【サポートケア県南ありのまま舎

【難病・障害者相談支援センター】

巨理町の計画相談に携わる事業所を対象とし開催されている巨理町相談支援事業所連絡会の取り組みについてご報告させていただきます。

巨理ありのまま舎基幹相談支援センターが企画・運営をしている巨理町相談支援事業所連絡会。支援機関等社会資源に関する勉強会その他、各事業所から交代で事例を提供、グループワークをしながら支援方法を検討します。私が提供した事例のテーマは「巨理にいながら人間関係を広げていく方法は?」。仕事して生活しながら出会いがあり、結婚して、子どもが生まれて、そして孫が生まれて…普通に生きたいだけ。当事者の思いを形にすべく、アイディアを求め臨みました。

仕事をする生活を始めてみる、就労支援を経て就職した経験者から話を聞く、Youtubeで配信する、モテる計画を練る、行政主催の婚活パーティに参加する…そもそも今の若い子たちの出会いの場所って?と欲談を挟みつつ、支援方法の世界観が広がるアイディアの数々を編み出してもらいました。アイディアをもとに支援に努めて参ります。

(板橋政江)

【難病ホスピスケア巨理ありのまま舎】  
【栄養マネジメント】

梅雨も終盤を迎え、いよいよ本格的な夏がやってきました。全国的に年々平均気温も上昇傾向にあり、群馬県などでは40℃を超す地域も今では珍しくなくなりました。

こんな猛暑を乗り切るためには、十分な休養、適度な室温及び体温管理、バランスの良い食事が大切になってきます。

暑い日は食欲が減退する方は多いと思います。そこで今日は夏にぴったりの【簡単・蒸し鶏とサラダの冷やしうどん】を紹介いたします。

作り方はいたって簡単。  
①うどんを茹でて冷水で冷やしどんぶりに入れます。

②その上にレタス、キュウリ、コーン、ほぐし蒸し鶏を混ぜたサラダを乗せ、冷やした麺つゆを適量入れます。

③最後にトマトを飾り、出来上がりです。

お好みでかつお節やマヨネーズ(カレー粉を混ぜても良いです。)をトッピングしても美味しく頂けます。具材はいろいろ変えても楽しいです。

皆さんも一度お試し頂ければと思います。

(佐藤司)



【サポートケア巨理ありのまま舎基幹相談支援センター】

「家族の第二子出産後、児童発達支援事業所の利用調整が必要な」家庭がいらつしやいました。四才でお姉さんになったCちゃん。言葉の遅れもあり自分の思いを表情や行動で表現し、お母さんは気持ちに汲み取りながら母子関係を深めていらつしやいます。そのようななか、言葉の遅れが心配であったり、どうかかわっていかかわからないなど、悩みをもつ保護者を対象に「なかよしひろば」に親子で参加されました。その後、親子参加を通じて児童発達支援事業所の見学をすることになったCちゃん。遊びを通じた支援者との二者関係から徐々に集団の場に参加していくCちゃんをお母さんは静かに見守られていらつしやいました。

Cちゃんと支援者との安心した関係性を基盤に集団での活動に取り組むCちゃんの表情は生き生きとした姿が在りました。そこには、支援者がCちゃんの適応する力を引き出し、人々との関係性のなかで発達成長する姿が在りました。児童への支援をするうえで「行動上の適応」と「心理的な適応」という二つのニーズに合わせて療育実践させている事業所の同行見学をさせて頂きありがとうございます。

た。巨理町の療育体制を関係機関の皆様と築いていければと思いますので宜しくお願い致します。(菊地理)

「支援頂きありがとうございます。ありがとうございました(敬称略)」

【書損じはがき】

23 4/27 & 6/26

【バザー提供】

23 5/28 & 6/28

【ボトルカンパ】

23 4/27 & 6/26  
サンマリ沖野店 (若林区) 9,316円

店員の皆様の温かな応対に、お買い物が楽しくなる雰囲気を感じました。永きにわたりカンパボトルを設置して頂き心より感謝申し上げます。(鈴木一彦)

【バザー開催日のご案内】

《2023年8月》

- 1日(火) ヨークベニマル山田鉤取店 (太白区)
- 3日(木) ヨークマルシェ大和町店 (若林区)
- 8日(火) ヨークベニマル南吉成店 (青葉区)
- 10日(木) 鶴ヶ谷生鮮いちば (宮城野区)
- 15日(火) ヤマザワ茂庭店 (太白区)
- 24日(木) 鶴ヶ谷生鮮いちば (宮城野区)
- 26日(土) ありのままショップセル (仙台ありのまま舎)
- 29日(火) 袋原(向日葵ライブポートセンター・太白区)

皆様からの「協力に感謝申し上げます。

ありのまま舎後援会(敬称略)

23 5/19 & 6/21  
【2023年 個人会費】

【2023年 法人会費】

【2023年 賛助会費】

全国からの「支援、ありがとうございます。」「ございます。(事務局 佐藤環)

【自販機販売設置支援】

◆サントリービバレッジ  
5月分の売上の一部を「寄付頂きました。

こくみん共済coop  
宮城推進本部 1,568円  
ありのまま舎(自立ホーム・太白ありのまま舎・サポートケア 泉南・巨理ありのまま舎) 10,915円

【令和5年度後援会費】

◆会員の皆様には納付のお願いをお送りさせていただきます。  
◆新会員の方も募集しています。

1976年2月25日 第3種郵便物認可 (毎週4回月・火・木・金曜日発行)

# スクラップ

河北新報

2023 (令和5) 年

6月11日 (日) 掲載



講座の意義を話される彬子さま

三笠宮彬子さま  
歌と福祉に  
特別な思い  
仙台で講座

第34回あじのまま舎福祉  
社講座(あじのまま舎・河  
北新報社など主催)が10日、  
仙台市青葉区の市福祉プラ

ザであり、市民ら70人が参  
加した。  
座長を務める三笠宮彬子

さま(41)は、<sup>カナダ</sup>「文字に  
思いを込める歌の奥深さに  
触れ」「講座が文化や福祉の  
世界に一步近づく機会にな  
ることを祈る」とあいさつ  
された。

歌人で「J生命誌研究館  
館長の永田和宏氏は「言葉  
の力」と題して講演した。  
ある医師が詠んだ「テレフ  
ーク 出来ない人が 支え  
てる 文明社会の 根っこ  
の部分」との一首などを紹  
介。「歌は日々直面する現  
実や矛盾を短い言葉の中  
的確にえぐり出す力を持っ  
ている」と強調した。

長崎県の耳鼻咽喉科専門  
医の吉田翔氏は聴覚障害を  
テーマに講演。先天性難聴  
の当事者として、会議の内  
容全てを聞き取れないとい  
った困り事のほか、補聴器  
や人工内耳といった対策、  
コミュニケーションの取り  
方を説明し、聴覚障害への  
理解を求めた。

東北放送

2023 (令和5) 年

6月11日 (日)

夕方のニュースで放映

「協力ありがとうございました (敬称略)」

当クリニックは、難病ホスピス太白ありのまま舎・自立ホーム仙台ありのまま舎の入居者の健康をサポートします。

茂庭台  
**ないとうクリニック**  
院長 二井谷 友公

(診療科目) ●内科 ●小児科

電話 (022) **281-5490**

### 診療時間

- ◆月～木曜日  
午前 9:00～12:00  
午後 3:00～ 5:00
- ◆金曜日  
午前 9:00～12:00  
午後 3:00～ 4:45
- ◆土曜日  
午前 9:00～12:00
- ◆休診日 日曜日・祝日



※ 診療時間についてはお問い合わせ下さい